Save the Children
100 YEARS

発行元：公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
〒101-0047 東京都千代田区内神田2-8-4 山田ビル4F

セーブ・ザ・チルドレン ニュース

Q クイズ ヒントは新聞の中に！？読んで答えを見つけよう！

〇にあてはまる数字を答えてください。

セーブ・ザ・チルドレンは、創設から〇〇〇年を迎えました。

世界の子どもたちのために働く！
国際NGO※のスタッフの一日
― ベトナム駐在員編 ―

世界中で子ども支援に取り組むセーブ・ザ・チルドレンでは、海外で支援活動を担うスタッフをはじめ、国内で日本の課題に取り組むスタッフ、また、多くの人たちに寄付を呼びかけるスタッフなど、たくさんの職員が力を合わせて子どもたちのために働いています。今回は、ベトナムで子どもの栄養改善に取り組むスタッフの一日をご紹介します。

※ NGO：Non-Governmental Organization（非政府組織）。貧困や環境問題など世界のさまざまな課題に、営利を目的とせず取り組む団体。



ベトナム駐在員
瀬戸口 千佳

経済発展著しいベトナムでは、都市部と農村部の経済格差が大きく、特に少数民族の人々は厳しい生活を送っています。少数民族が多く暮らすベトナム北部にて、農業と保健の2本柱で子どもたちの栄養改善を目指す活動を行っています。



「シンチャオ！」（おはよう）

通常は首都ハノイの事務所に勤務し、事業地の村へは泊りがけで出張します。出張時の1日の例をお伝えします。

08:30 世帯訪問

妊婦や2歳未満児のいる家庭をチームで訪問し、研修で伝えた家庭菜園や鶏の飼育法が実践されているかなど、話を聞きます。



12:00 昼食

牛肉や香草をライスペーパーで包んでいただく料理や、厚揚げのトマト煮などを、チームや村の事業関係者と食堂で囲みました。

13:30 事業進捗会議

行政関係者や村の代表など事業に関係する人々が四半期に一度集まり、事業の成果や改善点を話し合います。



チームのみんなと晩御飯。食堂でサッカーを観戦して盛り上がることも。宿で一日を終えます。

仕事の後


創設者 エグランタイン・ジェブ

セーブ・ザ・チルドレンは、創設から100年を迎えました。

生きる、育つ、守られる、参加する。世界中すべての子どもの権利が実現された世界を目指して。

セーブ・ザ・チルドレンの歴史は、第一次世界大戦で荒れ果てた1910年代のヨーロッパにさかのぼります。多くの子どもが深刻な栄養不良に陥っていた中、敵味方を超えて子どもたちを助けようと立ち上がったエグランタイン・ジェブが、1919年にイギリスでセーブ・ザ・チルドレンを創設しました。

その活動の中で、子どもの権利に関する世界初の公式文書とされる「ジュネーブ子どもの権利宣言」を起草。その理念は国連の「子どもの権利条約」へとつながり、今も世界に広がっています。

セーブ・ザ・チルドレンは現在、日本をはじめ約120ヶ国で子ども支援活動を展開。子どもの権利のパイオニアとして、世界中で子どもを取り巻く環境に変革をもたらしています。



1920年代、セーブ・ザ・チルドレンから食料支援を受けるロシアの子どもたち